

「つきたい仕事」

—男女の枠にとらわれず自分自身の可能性を広げるために—

○自尊感情 ○意欲 ○気付き

小学校 5年

1 題材設定の趣旨

子どもたちの中には男性だからこういう仕事、女性だからこういう仕事という先入観がすでにできあがっていることが多い。そこで、この先入観を改めて考えてみることを通して、自らの可能性をより広い視野から見つめることができるような子どもたちになってほしい。また、この学習を通して自分がやりたいことはどんなことか、どんなことをやってみたいと感じるのか、自分の生き方や可能性を真剣に考える契機としたい。そのためにも「男だから」「女だから」ということで可能性をせばめるのではなく、様々な可能性を探ってほしいという願いのもと、本題材を設定した。

2 ねらい

- ・男性の仕事、女性の仕事と子どもたちは分けて考える傾向を持つが、それを改めて吟味し、必ずしも性別で仕事に分かれているのではなく、それは自分の思い込みであることに気付く。
- ・自分に合った仕事、自分が興味を持てる仕事、自分はどんなことに興味を持っているか明らかにする。
- ・お互いがお互いのよさを認め、自分に自信を持つ。

3 学習の流れ

単元展開

時間	学習内容	活動内容(人権教育の視点)	評価
1	世の中の仕事	○世の中の仕事にはどんな仕事があるか考え、その職業についている人が男性であるか、女性であるか思い浮かべることで、自分の中にある性別による役割分担意識に気付く。 ・仕事の種類を出し合う。 ・その仕事をしている人を思い浮かべた時、男性だったか女性だったかにより仕事を分けてみる。 ・自分の希望の仕事を考える。 (性別役割分担に気付く力)	男女の枠組みで仕事をわけてみると、友達同士でも考え方が違うことを知り自分の感覚が全てではないことに気付けたか。
1	どんな仕事?	○自分の得意なこと、好きなこと、あこがれていること、などを書き出しその事柄だけから合っている仕事を考え合おう。 ・自分の得意なこと、好きなことはなんだろう。 ・友だちはどう思っていてくれるかな。 ・お互いにいいところを出し合おう。 ・長所から向いている仕事を考えよう。 (自尊感情)	友だちの長所に気付く力を持つとともに、その長所から合っているとされる仕事を考えることができたか。

1	いろんな可能性	<p>○この人は女子、あるいは男子と決めてかかって仕事を考えていたことに気付き、もっと広い目で自分の可能性を養っていかうとする態度を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この長所を持っている人は、男？女？決めてかかっていなかったかな。 ・男女にこだわらなければ、仕事の可能性が広がる。 ・男女で考えていた時には思いつかなかった可能性からもう一度自分を振り返ってみよう。 (偏見に気付き視野を広げる) 	長所を見て男女を決めてかかっていたことに気付き、広い目で自分の可能性を探ろうとする態度を持てたか。
---	---------	---	---

4 実践事例

実践記録 (第1時～第3時)

時	学習活動	主な児童の反応	◇指導・支援				
第1時	<p>○世の中にはどんな仕事があるだろう</p> <p>○男性のイメージ 女性のイメージ 両方のイメージ どれが浮かんだか、印をつける</p> <p>○しるしをつけてみて気付いたこと</p> <p>○自分がイメージした人とは逆の性の人がやっていたらどうか</p> <p>○自分になりたい仕事に印をつけ感想を記入</p>	<p>◇社会にはどんな仕事があるか、家の人がやっている仕事などを含めて想起しやすくする。</p> <p>◇出された仕事をしている人を思い浮かべた時、そのイメージがどちらの性だったかを記録させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">イメージに偏りが多く見られた職業</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; border-bottom: 1px dashed black;">女性のイメージ</th> <th style="text-align: center; border-bottom: 1px dashed black;">男性のイメージ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 5px;">看護婦、スチュワーデス モデル、ピアノの先生 花屋さん、保育さん</td> <td style="padding: 5px;">医者、大工、スポーツ選手、漁師 パイロット、政治家、新聞記者 コックさん、レスキュー隊</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>・女性だけの職業があまりない。(男子)</p> <p>・男の人の方が多かった。男性が多くて女性が少なかった。</p> <p>・女の人の方が多い。</p> <p>・思ったより男女同じ仕事をしていた。</p> <p>・ほとんどの仕事は男性も女性も入っている。</p> <p>・男でも女でもやっている仕事がいっぱいある。</p> <p>・気味が悪い。考えたくない。</p> <p>・大工だったら、女が力持ちになりそう。</p> <p>・医者も救急隊も女の人でも変な感じはしない。</p> <p>・あまり変じゃない。けっこう似合ってる。</p> <p>・こうやってわけていいのかな、と思いながらやったけれど、男の看護師や、保育士さん、客室乗務員などがいることがわかってよかった。</p> <p>・自分が思っているよりも男性も女性もやっている仕事がとてもたくさんあった。</p>	女性のイメージ	男性のイメージ	看護婦、スチュワーデス モデル、ピアノの先生 花屋さん、保育さん	医者、大工、スポーツ選手、漁師 パイロット、政治家、新聞記者 コックさん、レスキュー隊	
女性のイメージ	男性のイメージ						
看護婦、スチュワーデス モデル、ピアノの先生 花屋さん、保育さん	医者、大工、スポーツ選手、漁師 パイロット、政治家、新聞記者 コックさん、レスキュー隊						
	○自分の得意なこ	◇カードに自分の長所を記入させる。					

第2時

と、好きなこと
長所を書き出す
○友達の長所や得意なことをその人に教えてあげよう
○個人名はふせて得意なこと、長所、好きなことだけを頼りに、この人に合っていそうな仕事をみんなで出し合う。

・図工 ・運動 ・サッカーが得意 ・料理が好き ・絵がうまい
・中には、なかなか書けずに困っている子もいる。
◇友だちのカードにその人のいいところや得意なことを書き込んであげられるように、その人のいいなと思う所を素直に書くよう指示。
・やさしい ・力が強い ・話しやすい ・リーダーシップがある
・字がきれい ・係や当番の仕事をきちんとやる など
・「あなたは○○になればいいよ！」などと話しをする子もいた。
◇長所等を板書。誰かは伝えずにどんな仕事が合っているか話し合う。

	得意なこと、好きなもの、長所	出された仕事
A 児	・やさしい ・リーダーシップあり ・書道 ・絵を書くこと ・お菓子づくり	・画家 ・お菓子やさん ・習字の先生 ・司会者 ・先生 ・相談を受ける人 ・ベビーシッター ・保育園の先生 ・看護婦
B 児	・やさしい ・おもしろい ・明るい ・工作が得意	・芸人 ・工作教室の先生 ・焼き物を作る人、または先生 ・おもちゃ作り ・家具作り ・大工さん
C 児	・やさしい ・しっかりしている ・明るい ・力が強い	・レスラー ・大工さん ・ボクサー ・おすもうさん ・ボディガード

(他に何人分かやったが省略)

第3時

○新たに一人、長所や得意なことから向いている仕事を出し合う。
○この人は男子だと思ったか、女子だと思ったか
○感想を記入

	得意なこと、好きなもの、長所	出された仕事
D 児	・料理 ・野球 ・マラソン ・やさしい	・マラソンの選手 ・コックさん ・野球選手 ・習字の先生 ・教師 ・保母さん・ベビーシッター ・犬などのブリーダー ・サラリーマン ・受付 ・お店の人

◇前時に検討した長所なども思い出しながら、この人を男子だと思ったか、女子だと思ったかを見直す。
・お菓子づくりが入っているから女子だと思った。
・工作が得意だから男子だと思ったけど、女子にもいた。
・力が強い、と出ていたから男子だと思った。でも、力が強い女子だっている。女性のボディガードなんてカッコいい。
・男子だか女子だかわからなかったら、仕事もいっぱい出た。
◇本単元を振り返って感想を記入する。

5 単元をふり返っての児童の感想

男の子や女の子などを男の子女の子の得意なことで決めていたけど、ひとつひとつ見ていくと女の子がやってもいいことなどがあって勉強になった。

黒板にぼくのがあって、今まで考えたことのないことがいっぱいあってぼくにはこういう仕事があるんだなあと思った。

友だちの意見を聞いて、いろいろ可能性があると思った。あと、やりたくなった仕事もふえた。

ぼくは男が女の仕事をやるのは変だとおもっていたけど、やさしい所などがあれば男でも女の仕事（看護婦、看護師、スチュワーデス、スチュワード）をやっても全然変じゃないと思った。

今日やってみて自分が頭デッカチだったのに気がきました。自分で自分の世界を小さく持っていました。男だからとか、女だからとか決めつけしないで、自分の世界をもっと広く持ちたいと思います。

みんなにいいところを聞いた時、すぐあきらめないところ、とか言ってくれてうれしかった。女しかできない仕事とかはあまりないんだと思う。こんどからそうやって決めつけたりしないで心を大きくしようと思う。

6 評価

- ・友達に自分の長所や得意なことを見つけてもらうことで、自分はこんないいところがある、と友達に認めてもらっているということに気付き、自分に対する自信を深めることができた。
- ・女子の長所、男子の長所という捉え方がすでに偏った見方になっていることに気付き、長所や個性を見る視点に広がりを持つことができた。
- ・将来の自分の夢を語ることで、お互いを認め合う姿勢を大切にすることができた。

7 成果と課題

【成果】

性別にとらわれている面があることに、今更ながら気付いた。教師自身もそういう面を強く持っているので、まず自らが内面をみつめて共に学習していく必要性を感じる。例えば「力が強い」というと男性の特徴、あるいは長所と決め込んでいる。だから女性が力が強いと長所とは考えず、そのことを生かす可能性をつぶしてしまうことになる。改めて教師が問われるきっかけとなった。

【課題】

- ・職業については、テレビなどマスコミからの情報が色濃く反映している。職業そのものについての学習や、メディアリテラシーを高める学習も平行して行うことが望ましい。
- ・ジェンダーフリーに関する教育を行うと同時に、性教育を行う必要がある。
- ・ジェンダーについては意識的に掘り起こさないと、気付くことができない場合が多い。特に家庭や地域の考え方の中で子どもたちは育つので、社会教育との連携が重要になる。どのように連携していくかが、課題として残る。